對袁世凱氏觀概要

末永節

国立国会図書館　宮島誠一郎関係文書（所蔵）2337

叙

一天下の經綸を策するもの、誰か祖國の利害を以て基礎とせざるあらんや、只實勢の審察を正さんことを要す。

一經綸の策を懷くの士、誰か以て之れを事功に收めんことを期せさらんや、只時務の機宜に中らんことを要す。

一「細行之美尚厥」と云へり、苟も士の世に立つもの先づ此の一番の愼重を要す、而して豁大の襟度、而して公平の批判、之れに因つて「强力以濟事」を要す。

對支那問題は對支那國體問題となり
共和統一か、帝國統一か、聯邦統一か、全土開放か、煎じ詰めて對袁
世凱氏となれり、之れ現下に於ける
事實問題也

一、對袁氏問題は左の數派ありと雖も其傾向は一齊に排袁的に集注せられて公然論議せられつゝあり

(一)名分論派
敬稱不倫論派
(二)恐袁派
(三)憎袁派
(四)嚇袁派
(五)討袁派
(六)侮袁派
(七)宗社黨

一、名分論派、第二宗社黨、第二東洋道德擁護論是れなり

○專ら清朝を恢復するを以て主旨とするもの、而して宣統幼帝を擁立し、以て全國統一を企圖す、即ち君主政體主義なり、現在の共和政體を根底より破壞せんと期するなり

○清朝の復興を企圖し一獨立帝國を建設せんとするもの、此の目的を達するを得ば袁帝國の出現も問ふ處にあらず、又共和の現制度も問ふ處にあらず、數帝國となり數共和國となり帝國及共和國並立となるとも、そは自然の成行に任せんのみ、之れ支那聯邦論の一種なり

○清帝國の獨立は大祖發祥の地を中心とし、之に連る數省を統一するにあり、討袁は手段なり目的にあらず

○清朝の復興は祖業の恢復なり、故に清朝の正系なる宗室の一王を奉戴するも妨げず、宣統幼帝を擁立せんとするは事實に於て不可能なればなり

○共和政體は支那の國情に適せず、且つ清朝の肇祖は明朝の臣下にあらず、故に其天下を取るや一種種族的力爭の結果なり、袁世凱が天下を攘むと其義一ならず

東洋道德擁護論

○袁世凱は簒奪の臣なり、之が登極を認容せば東洋の倫理道德をして其根底より破壞せしむるの端を啓くものなり

○此道德の根底を破壞するを認容せば其害毒の及ぶ處日本帝國の基礎をも危くするに至る慮りなしとせず

○宣統皇帝を幽厄に救ひ、其祖業を恢復し、其宗廟血食の地を存せしむるは、仁義の舉にして、王道の大本、名分の確立を標示するものなり

一、敬稱不倫論派

○日本は萬邦無比の國體を樹立せり、天皇陛下は萬世一系を以て相繼承し給ふ之れ事實なり、亂臣賊子輩に許すに同一の最敬稱を以てするは不倫の甚しきものなり

○袁世凱が大總統となるや共和肇國の公憲を無視し、已にして此公憲を破壞し、國體變更なる名義を以て國民を欺罔し、進んで自ら皇帝の位に即かんとす之れ賊子なり

○革命亂の勃發するや清朝積威の餘力尚ほ未た灰燼に至らず、此際に當つて袁世凱は直ちに蹶起し其部曲を結束し、以て朝廷を擁護せば、大局を維持する難きにあらざりしなり、之れ素より人臣の大節なり、世凱乃ち此機に乘じ、攝政王を威嚇し、遂に皇上退讓の大紹を發表せしむ、而して己れ取つて之に代はるの素地をなしたりき之れ亂臣なり

○世凱已に大權を總攬し、己れに從はず、己れに抗し、己れに不利にして、己れに反するものあれば、悉く之を拘囚し、之を脅迫し、之に食はしむるに利祿を以てし、尚ほ聽かざるものは戮殺して赦すなし、不仁無德之を忍ぶ可んば天下亦何をか忍んや

○國際の誼他國の內政に干涉せさるを旨とすと雖も、要は程度の問題なり、亂臣賊子世凱輩に奉するに日本陛下と同一の最敬稱を以てするが如きは斷じて許す可からず、日本國民は袁世凱に對し一匹夫を以て取扱ふを至當とす

一、恐袁派

○袁世凱が陰險にして巧妙なる怪手腕、惡辣にして熟達せる魔伎倆、彼が擧動や一切端睨すべからず、彼が心術や一切揣摩すべからず、無信義沒道德彼や到底信用すべき者にあらず

○老梟の資を以てして加ふるに排日は殆んど其先天的思想なる袁世凱、彼に對して日本が如何に之を利用せんとするも、却て彼が爲に致さるゝを免れず、彼は到頭日本の害をなすものならずんばあらず

○如何に老狡とは云へ、如何に陰險とは云へ、如何に無信義沒道德とは云へ、彼が橫着る加減の度に見れば袁世凱は兎も角一種非凡の怪傑たるを失はず

○大總統として現在の地位に立つ世凱は尚ほ日本に對して信賴する所なし、ともすれば逆抗せんとする氣勢を示す、況んや皇帝となるに於ておや

○英國は始終一貫して袁家を庇保し濫はなし、彼は其生涯を英國に托し、其後援に據り內政外交共に處理をなしつゝあり、袁世凱は到底英國に背く能はさるものなり

一、憎袁派

○袁世凱と云へば日本人は一種憎惡的感情を以て迎へ、兎も角も「好かぬ奴」なりと云ふにあり、之に因つて討袁軍の名義を歡迎し排袁の氣勢に和同するにあり

○袁世凱が朝鮮公使たりし時後が傲慢なる擧動を憎むに因し、日清戰爭に於て彼に對する憎惡の念を嵩激したりき、之れ日本人一般の感情なり

○支那事情に通曉せる日本人は、袁世凱が其國內に於ける擧動を見聞し、之に因つて深酷なる嫌惡の感を印し、又彼が一般國民の智識低級なるに乘し、勝手氣儘に振舞ふは不埒千萬なり

○革命發生以來更らに新たに對袁憎惡の念を增長し以て今日に至り其極點に達せり

一、嚇袁派

○歐洲の大亂は支那をして自然的に勢禁形格の狀に陷らしむ、之を掣駁するは今日に在り、袁世凱梟雄の資を負ふて此大局に立つ、彼れ如何に怪才ありと雖も亦之を奈何ともすべきなし、日本の威力は當に以て彼を嚇殺するに足る

東洋の覇權は正に日本の手中に在り、英露佛米皆命を日本に聽かざるべからず、日本は事實上の盟主なり、由來遠交近攻は袁家常用の手段なり、當に今日の時機に於て之が根底を奪破し一嚇以て彼が死命を掣すべし

○袁世凱以て用ゆべし、彼が大總統たると皇帝たると素より問ふ處にあらず、彼が才略は優に以て政治家たるの資格を具備するものなり、蓋し現下四億の民衆中彼に匹儔する者あるを見ず、彼一躍して大總統となり再躍して皇帝とならんとす、即ち此機以て乘すべし、所謂扼喉拇背の術を以て彼を嚇殺するを得べし

国立国会図書館　宮島誠一郎関係文書（所蔵）2337

一、恐袁派

○袁世凱が陰險にして巧妙なる怪手腕、惡辣にして熟達せる魔伎倆、彼が擧動や一切端睨すべからず、彼が心術や一切揣摩すべからず、無信義沒道德彼や到底信用すべき者にあらず

○老獪の資を以てして加ふるに排日は殆んど其先天的思想なる袁世凱、彼に對して日本が如何に之を利用せんとするも、却て彼が爲に致さるゝを免れず、彼は到頭日本の害をなすものならずんばあらず

○如何に老狡とは云へ、如何に陰險とは云へ、如何に無信義沒道德とは云へ、彼が橫着さ加減の度に見れば袁世凱は兎も角一種非凡の怪傑たるを失はず

○大總統として現在の地位に立つ世凱は尙は日本に對して信賴する所なし、ともすれば逆抗せんとする氣勢を示す、況んや皇帝となるに於てをや

○英國は始終一貫して袁家を庇保し渝はるなし、彼は其生涯を英國に托し、其後援に據り內政外交共に處理をなしつゝあり、袁世凱は到底英國に背く能はざるものなり

一、憎袁派

○袁世凱と云へば日本人は一種憎惡的感情を以て迎へ、兎も角も「好かぬ奴」なりと云ふにあり、之に因つて討袁軍の名義を歡迎し排袁の氣勢に和同するにあり

○袁世凱が朝鮮公使たりし時後が傲慢なる擧動を憎むに因し、日淸戰爭に於て彼に對する憎惡の念を嵩激したりき、之れ日本人一般の感情なり

○支那事情に通曉せる日本人は、袁世凱が其國內に於ける擧動を見聞し、之に因つて深酷なる嫌惡の感を印し、又彼が一般國民の智識低級なるに乘し、勝手氣儘に振舞ふは不埒千萬なり

○革命發生以來更らに新たに對袁憎惡の念を增長し以て今日に至り其極點に達せり

一、嚇袁派

○歐洲の大亂は支那をして自然的に勢禁形格の狀に陷らしむ、之を擊破するは今日に在り、袁世凱梟雄の資を負ふて此大局に立つ、彼れ如何に怪才ありと雖も亦之を奈何ともすべきなし、

日本の威力は當に以て彼を嚇殺するに足る

東洋の覇權は正に日本の手中に在り、英露佛米皆命を日本に聽かざるべからず、日本は事實上の盟主なり、由來遠交近攻は袁家常用の手段なり、當に今日の時機に於て之が根底を奪破し一嚇以て彼が死命を擊すべし

○袁世凱以て用ゆべし、彼が大總統たると皇帝たると素より問ふ處にあらず、彼が才略は優に以て政治家たるの資格を具備するものなり、蓋し現下四億の民衆中彼に匹儔する者あるを見ず、彼一躍して大總統となり再躍して皇帝とならんとす、即ち此機以て乘すべし、所謂扼喉拘背の術を以て彼を嚇殺するを得べし

○內外諸新聞の論調は排袁の氣勢滔々たり、之れ彼の恐るゝ所なり、國內所在の反亂は擾々たり、之れ彼の憂ふる所なり、四國の警告は切々たり、之れ彼の顧慮する所なり、世界の諸强何の國か賴むべき、財政の窮乏何の道か補はん、其補充の法絕ゆるに至つては彼途に窘迫し、殆んど四顧茫々拱手呆然たらんのみ、此機一嚇以て大局を決すべし

○日本の威容は俺迄堂々たり正々たらざる可からず、光明太陽の如く、正大天地の如く、仁風慈雨自ら東海の一端より至り、萬物劬育の德に浴するの慨あるを見ば、梟雄心折し、頑民瞻仰し、始めて日本に信賴するに至るべし、是れ自然的必然の結果にして嚇袁の意義ら自瞭然曉得するを得ん

一、討袁派

○共和の現制度を蹂躙し、君主政體を新設せんと企圖し、併せて自ら登極せんとす、之れ天下を欺罔し、國家を犧牲に供するもの、斷じて容すべからず

○愛國誠義の志士を殘害し人道の大逆賊子なり

○由來革命黨との關係的情義上之れと不可離の緣故あるものあり、且つや理勢必至の結果不俱戴天の仇敵とはなれり

一、侮袁派

○袁を以て怪奇の梟雄と信ずる如きは買被りの甚しきものなり、畢竟するに彼れや庸中狡々の徒のみ、之れを驅使する何かあらん、驅使するは今日にあり

○袁が現在の地位と勢力に眩惑せられ之を以て傑物なりとなすも、畢竟するに彼や城鼠社狐の類のみ、之れを利用する何かあらん、利用するは今日にあり

○一個の袁世凱惜むに足らず、支那の一國豈必ずしも彼の力にのみ賴むものならんや、彼れ滅亡するも、時勢は自ら新らたに人物を造り出すべし

以上は對支那問題殊に現下の急務たる對袁世凱氏問題に付き我國朝野の有力者諸氏意見の概要を分叙したるものなり、固より之れ余が卑見を以て觀察したるものなるを以て或は謬察なきを期せざるなり、幸に諸氏の鑑正を乞ふ

右

大正五年一月

跋

△諸家各主張あり、同黨伐異は勢の免れざる處なり、然れども之れに因て中傷排擠を事とするが如きは士君子の爲さゝる所。

△雷同附和は不可なり、從て之れを煽動するが如きは斷じて不可。

△事實は時日なり、時日の經過は事實の判定を證明す。

以上

虔白

△曩に『對支急務意見摘要』なる一篇を草し御左右に呈し候

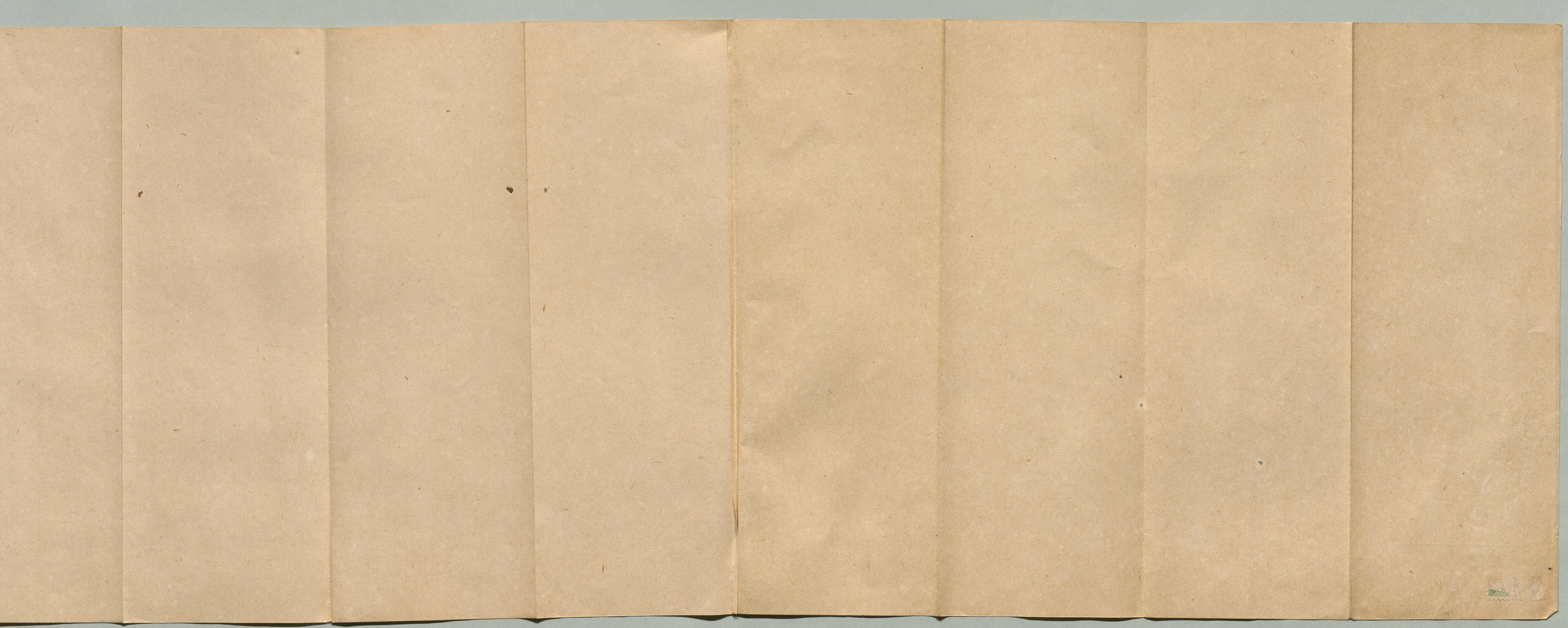
△今又本篇を草し御參考の資として御劒覽に供し候

△兩篇御倂讀を賜ひ卑見の大要御領取を得ば幸甚

以上

末永節

国立国会図書館　宮島誠一郎関係文書（所蔵）2337



国立国会図書館　宮島誠一郎関係文書（所蔵）2337